

第8回えひめ手作り
紙芝居コンクール
「のぼさんまつり」
事業報告

地域を愛する心の醸成

えひめ紙芝居研究会のぼるは「正岡子規」の紙芝居をきっかけに、郷土の偉人の紙芝居にふれることで、子ども達の表現力、創造力の向上を図るほか、郷土・地域を愛する心を醸成したいとの思いで、紙芝居に特化した活動を始めました。当時は紙芝居だけの活動団体は無く、手探りの出発となりましたが、文化のまち松山市の取り組み「坂の上の雲のまちづくり」に対する市民への機運向上を図るための活動として支援をいただき広く周知されることとなりました。

作ると演じるの両輪

現在の活動内容は、①郷土・地域を愛する心を醸成するために「郷土の偉人の紙芝居を作成」②市民や観光客へPRとおもてなしのための「定期上演」③子ども達の表現力、創造力の向上を図るため楽しい「紙芝居」にふれる機会を増やす「手作り紙芝居講座や小学校等での上演」などを中心に活動してきました。また、四国初の「全国紙芝居まつり」の開催をきっかけに、今日まで引

日本の伝統文化『紙芝居』で
無限に広がるコミュニティ

き続いている「えひめ手作り紙芝居コンクール」は、紙芝居への興味を広げるだけでなく、当初の目的である「表現力、創造力の向上を図ることが出来ていると感じております。また、もう一つの目的「郷土・地域を愛する心を醸成」する活動においても、「スタート時の「正岡子規から「秋山真之」「伊佐庭如矢」「衛門三郎」などの偉人の紙芝居」と「四国にきつねがおらんわけ」「こじよさんとこじよめさん」など地域の話などの作品を手掛け配信してきました。

愛媛から全国へ

そして、活動開始から十年目に当たる本年は「正岡子規生誕一五〇年記念」に当たる年であることから今年度は毎年開催の手作り紙芝居コンクールを「正岡子規」生誕150年を記念して「のぼさんまつり」とし、正岡子規を感じる紙芝居を全国から募集することで、愛媛の偉人正岡子規の魅力再発見となり、郷土愛を育むとともに地域の伝統や文化、民話などの伝承に繋がることが期待されました。開催結果として、神奈川県、大阪府など県外からの応募も含め総作品数一二三作品が集まりました。

えひめ紙芝居研究会
のぼる
会長 稲葉 良恵



た。一次審査、二次審査を経て十一作品が選出され公開審査となり、坂の上の雲ミュージアムは「正岡子規」を感じる紙芝居一色で彩られ「のぼさん」の新しい魅力発見の作品に、参加者も観光客も楽しい時間を過ごすことができました。きっと、観光客への愛媛・松山の新たな魅力発信にとなったことでしょう。特に愛媛には郷土の文化遺産である民話も多く、今後の紙芝居の発展に期待できます。

伝える力でひろがる「コミュニティ

郷土の偉人・地域の御話を紙芝居という形にすることで「創る喜び」を感じることができ、それらを演じることで「自己表現の楽しさ」を知ることが出来ます。その為にも、紙芝居を作ることが「難しいから」「楽しい」に、演じることが「恥ずかしい」から「楽しい」に変換できるよう、伝える力のスキルアップが必要とされます。そこで、私たちは地域に根差した紙芝居作りを研究するとともに、多くの担い手を育成し、紙芝居によるコミュニティの輪を更に広げていくことを目的として活動していきたくと考えています。